Clinical indicators and coronary angiographic features of expansive arterial remodelling in patients with abdominal aortic aneurysms

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2019-03-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 遠藤, 裕久 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002271

授与機関名　順天堂大学

学位記番号　甲第 2049 号

Clinical indicators and coronary angiographic features of expansive arterial remodelling in patients with abdominal aortic aneurysms

（腹部大動脈瘤患者における冠動脈拡張性リモデリングの臨床的特徴）

遠藤　裕久（えんどう　ひろひさ）

博士（医学）

論文内容の要旨
冠動脈拡張症（CAE）は腹部大動脈瘤患者（AAAs）に高頻度に合併することが知られている。しかしながら、冠動脈拡張症を定量的に評価した報告は少ない。そこで我々は冠動脈の拡張性変化を定量的に定義し、臨床背景因子との関連を調査した。対象は当院で腹部大動脈瘤の手術目的に入院し冠動脈造影検査を施行された 123 症例である。対照群として同時期に当院で心臓カテーテル検査を施行された症例から、患者背景因子をプロペンシティスコアを用いてマッチさせた 123 例を抽出した。冠動脈径は定量的冠動脈造影法を用いて測定し、病的な拡張性リモデリング（拡張性リモデリング）を冠動脈の優位性を考慮した右冠動脈もしくは左回旋枝最大径の第３四分位数以上と定義した。古典的 CAE、拡張性リモデリングの両者と多変量ロジスティック回帰分析で臨床因子との関連を調査した。全集団で年齢は平均 72 才、85％が男性の集団であった。主な血液検査所見では高感度 C 反応性蛋白（hs-CRP）が AAA 群で有意に高値であった（0.11 mg/dL（0.05-0.27 mg/dL）vs. 0.08 mg/dL（0.03-0.18 mg/dL），p=0.02）。古典的 CAE の合併率は AAA 群が対照群に比べ有意に高率であった（28% vs. 8%, p<0.001）。定量的解析では冠動脈３枝全て AAA 群において最大径、及び最大径を体表面積で除した標準化冠動脈径は 3 枝とも有意に AAA 群で大きかった。拡張性リモデリングの合併率も AAA 群で有意に高率であった（31% vs. 19%, p<0.05）。多変量解析では CAE と AAA（オッズ比(OR) 4.56, 95%信頼区間(CI) 2.18-10.4)、BMI（per 1 kg/m2 increase; OR 1.11, 95%CI 1.03-1.21)が、拡張性リモデリングは BMI（per 1 kg/m2 increase; OR 1.11, 95%CI 1.02-1.21)と hs-CRP 高値（>0.1 mg/dL）(OR 2.19, 95%CI 1.08-4.52)が有意な関連を示した。本研究は CAE と定量的指標で定義された拡張性リモデリングの両者とも大動脈瘤群で有意に高率に存在することを示した。さらに、CAE は AAA の存在と強く関連し、拡張性リモデリングは肥満（BMI 高値）と炎症（hs-CRP 高値）と関連していることが示唆された。